

## 第5学年 社会科学学習指導案

1. 日時・場所 令和元年12月6日(金) 4校時
- 2.
2. 単元名 「わたしたちの食生活と水産業」(全12時間 本時10時間目)

### 3. 単元目標

我が国の水産業のさかんな地域の分布や、生産地と消費地を結ぶ運輸について調べ、漁業が営まれている小田原の水産業の特色や従事する人々の工夫や努力を理解すると共に水産業が加工や運輸などの仕事と密接に関わっていること、水産資源や環境を守りながら漁業を進めていることを理解する。

### 4. 「ひびき合う三の丸の子どもたち」にせまるために

研究課題「子どもが解決したい問題を持ち、友だちとひびき合いながら学習する子どもの育成」  
手だて・・・子どもの願いや思いを見とった単元構想と授業づくり  
高学年ブロックテーマ「仲間への理解、自立する自分」  
・仲間を理解しつつ、自分の思いも大切にする姿  
・新しい価値観にふれ、自分を再構築する姿

#### (1) 児童の実態

##### <5年2組の子どもたち>

全体的に自分の思いに素直で、体を動かして活動することが好きな子どもたちである。人に言われたことや任された仕事に対して真面目に取り組もうと努力できる子が多い。特に、学校や学級の代表となって活動する役割に立候補するなど、積極的に取り組もうとする姿が見られる。

学習場面では、発問の意図を素早く捉えて自分の考えを構築しながら話せる子もいれば、考えをもつていても周囲に広められない子、自分の考えをもつこと自体に時間がかかる子、声掛けがなければ動けない子などの個人差が大きい。話し合いの場面では、子どもたちにとって身近で、生活に根差して考えられる問題に対しては、「話したい。」という意欲的な姿が見られるが、身近でなく想像力が必要となる問題や難しさを感じる問題には、すぐに考えることをあきらめてしまう姿も多く見られる。

生活場面で子どもたちのコミュニケーションの取り方を見ると、分け隔てなく交流し、**相手の気持ちを察しながら自分の思いを調整して表現できる子**もいるが、相手の気持ちが気になって自分の思いを上手に表現できなかったり、自分の気持ちだけを主張してしまったりする子など、支援が必要である。

これらの児童の実態から、一部の児童の発言で学習が進んでしまったり、影響力のある友だちの発言に安易に同調して話題が深まらなかつたりする傾向がある。

##### <聴く・話すについての指導>

年度当初、友だちと考えを交流すること自体に躊躇する様子が多く見られた。また「聴く・話す」に着目すると、どんな発問に対しても相手の意図を捉えて聴き、発言しようとする子は限られており、話題の主旨が聞き取れずに筋道から外れた発言をしたり、何を答えたらよいのかも分からず無反応になってしまったりする姿が見られた。そのため、まずは一人ひとりが話しやすい環境づくりを優先に考えた。意図的なグループ活動を多く取り入れることで、自分の言葉で話したり友だちの話を聴いたりすることへの抵抗感がなくなってきた。しかし、グループで考えを集約するような場面では、よく話す子の考えを優先させて「自分はこれ以上話さなくてもよい。」「深く考えなくてもよい。」といった他力本願な姿や「自信がない。」と自分の考えを周囲に伝えることに消極的な姿が見られた。友だちの考えに安易に同調

する姿の裏には、「深く考えられない。」「自分の考えに自信がない。」という気持ちがあると考えた。「深く考えられない」子には、友だちの考えを自分の言葉で言い換えて話すように促し、「自分の考えに自信がない」子には、その背景にある気持ちを共感的に聞き取りつつも、自分の思いを周囲に伝えることの大切さを話してきた。また、話し手側の問題だけでなく「相手の立場に立ち、受容しながら聴く」といった聴き手側の問題も大きいことが分かってきた。

夏休み明けからは、自分の考えをもって話すことと同時に「積極的な聴き方と消極的な聴き方との違い」について考える機会を設けた。ロールプレイを通して感じ方の違いを体感すると、相手が話しやすい聴き方をしようと努力する姿も見られるようになった。また、学活の時間には、子どもたち全員が楽しく話せそうなテーマを決めて話す場を設けると、相手意識をもった話し方や聴き方に意識が向くようになった。しかし、それでも教科学習等、難しい問題や想像力を必要とする問題に対しては相手意識が薄れてしまう。自分の考えを意欲的に話す子であっても友だちの考えと比較しながら聴き、考えを再構築することは難しい。それは、話し手が聴き手の様子を見ずに説明していたり、聴き手が話し手の意図を考えずに聞いてしまったりすることが根底にあるのではないかと考えた。そこで、「**相手の話の意図を捉えて聴いた上で話す**」ことを大切にしたい。聴き手は話し手の意図と自分の考えを比較しながら聴き、話し手は段階的に分け、聴き手に確認しながら話すことを指導している。今後も話し手と聴き手が互いに話の内容を確認し、理解し合いながら話し合いができるように支援していきたい。

#### <これまでの関わり合い・ひびき合い>

新たな学習や難しそうな問題に対しては消極的であるが、グループ活動などの小集団では、自分と友だちとの考えを交流し合って考えをまとめようとする姿が見られる。また、自分の生活に関わる問題や生活に根差した問題については、互いに活発な意見交流しやすい。国語「注文の多い料理店」の学習で、「二人の紳士は猟師なのか?」について話し合った際には、猟師という職業について知らないことを質問したり、知っていることを答えたりしながら話し合いが進んだ。ある子が「職業として猟をするなら猟師だけど、遊びでやっているから猟師じゃない。」と発言したことをきっかけに、二人の紳士の言動が仕事なのか遊びなのか、根拠となる文を読み取りながら話し合うことができた。このように、子どもたちが解決したい問題には、多くの子どもたちが参加する姿が見られた。

そのため、本単元では、学習内容をどれだけ生活に根差して自分事として捉え、自分たちが解決したい問題に出会うかが重要と考える。自分たちの住んでいる町に小田原漁港があり、漁業がさかんであることは、子どもたちにとって自分事として捉えやすい。小田原の漁業や漁師の仕事について、共通の話題や体験をもとに、子どもたちが解決したいと思える問題を取り上げ、**自分と友だちとの考えを比較しながら考えを深める姿**をめざしたい。

## (2) 単元と指導

### <単元について>

子どもたちは、第3学年で地域の販売店やスーパーマーケットの見学を通して、食料生産の仕事が人々の生活と密接な関わりをもって行われていること、販売の仕事が消費者の願いを踏まえて売り上げを高める工夫がされていることを学んでいる。第4学年では、調べ学習や見学を通して地理的環境の概要や生活環境を整える事業とその役割、日本の産業が国民の生活と密接に関わっていることを学んでいる。

本単元は、学習指導要領第5学年の内容項目(2)に関わる。内容項目は、ア「我が国の農業や水産業における食料生産について、学習の問題を追究・解決する活動を通して、食料確保・輸送や販売・資料活用について知識及び技能を身に付けること。」イ「食料生産に関わる人々の工夫や努力を捉え、その働きを考え表現すること。」とされている。しかし子どもたちを取り巻く環境は、店等で多様な食料品を目にしても、肉や魚も切り身で売られたり複雑に加工されたりしているものが多く、食料のもとの姿を知る機会も少ない。食料生産の仕事が、人々の生活と密接な関わりをもっていることを知っていても、人々の工夫や努力については知らないことが多い。

そのため、本単元を、内容の取扱い(2)-アに書かれている「食料生産の盛んな地域の具体的事例を通して調べることに重点を置き、小田原の水産業に視点を当てて構想した。子どもたちにとって身近な生産地を学習していくことで、小田原の水産業が自分の生活にどのように関わりをもっているのか**自分事として捉え、生産者に対する思いをもちやすい**のではないだろうか。この学習を通して、小田原の水産業や生産者の工夫や努力を知り、伝統や郷土のよさに気付いてほしい。

本時は、研究課題である「子どもが解決したい問題を持ち、友だちとひびき合いながら学習する子どもの育成」をめざし、人々が自然環境に適応して生活するために、多大な工夫や努力をしてきたことやその思いを、**自分事として捉えながら追究する姿**を願う。

#### <指導について>

本校の近くには漁港があり、家族で魚釣りをするなど、魚について身近に感じている子がいる。また、近所には魚屋や寿司屋もあり、頻りに寿司屋に行く子もいる。子どもにとって魚の話題は身近なもので話しやすい。

導入では、「すしネタクイズ」というみんなが楽しめる活動を取り入れ、すしネタのものの姿を想像しながら話題を広げる。小田原のアジが有名であることを子どもたちも知っているが、他の魚がどこでとれるかは分からない。資料を提示し、日本の主な水産物の水揚げ量に目を向け、全国で魚がとれることを知る。全国で魚がとれるのは、日本の地形や海流が漁獲に適していたり、日本人の魚の消費量に伴い漁獲方法が工夫されてきたりしたからである。全国の漁獲量を視覚的に分かるようにし、気になることを交流する中で「どこから魚がくるのか。」「どうやってくるのか。」と疑問に思うことが予想される。ここで、日本の地形や海流、漁業の種類、運送について学んでいく。子どもたちは日本の魚の消費量が多い事実に出会った時、「どうやってとっているのか。」と疑問に思うだろう。魚がとれる理由として工夫されてきた漁獲方法も関係している。漁獲方法を調べると、日本の漁法の多様さに驚くだろう。魚に適した漁法を比較する中で、小田原でも有名なアジが話題に上がることが予想される。そこから、小田原の水産業に話題が移っていく。小田原でも有名なアジは、子どもたちが調べた資料では巻き網か地引き網でとれる。「巻き網や地引き網でとっているのか」実際に確かめたいという気持ちになるだろう。そこで水産試験場に見学に行き、小田原の漁業について話を聞く。

水産試験場で話を聞くと、小田原では、定置網を主流に、刺し網や一本釣り、素潜りやシラス船曳網などのとり方をしていることが分かる。定置網について詳しく話を聞くと、「巻き網や地引き網でなく、なぜ定置網なのか?」という疑問が生まれる。また、半数以上の魚が逃げる特性をもつ定置網について「半数以上も逃げるのに、なぜ定置網が主流なのか?」という思いが切実になるだろう。ここで、**「半数以上、魚が逃げるのに何で定置網でとるのだろうか?」**が子どもが解決したい問題となる。

本時では、自分たちが調べてきた事柄や見学時に聞いてきた共通の話題と体験がもとになる。定置網が大きい、「たくさん・いろんな種類がとれる」と考える子や網の目を小さくしすぎないことから「魚をとりすぎない」と考える子、相模湾の豊かさに目を向けて「小田原の地形に合っている」や江戸時代から同じ操業法という視点から「伝統だから変えられない。」と考える子がいると予想される。定置網の不利な点を明らかにしながら話を進められるようにしたい。

本時では、**定置網の不利な条件を明らかにしながら考えを伝え合うことで、小田原の地形や歴史・定置網の特色やよさについて自分の考えを深める姿**をひびき合いの姿としたい。話し合いの際には、似ている意見や不利な条件に関するつぶやきを積極的に取り上げながら焦点化していく。また、反論意見が出ない時に見学時の様子や話を振り返り、おかしいと思うことがないかを尋ねたり、考えを表現しにくい子に対して、意図的に指名をしたりしながら、自分事として話せる姿を願っている。

**単元目標** 我が国の水産業のさかんな地域の分布や、生産地と消費地を結ぶ運輸について調べ、漁業が営まれている小田原の水産業の特色や従事する人々の工夫や努力を理解すると共に水産業が加工や運輸などの仕事と密接に関わっていること、水産資源や環境を守りながら漁業を進めていることを理解する。

すしネタクイズをしよう①

タコ・カツオ・アジ・イワシ・エビ・えんがわ(ヒラメ・カレイ)サバなど

【ことば】水産業・水産物

- ・おすし食べたい！ ・これは分かるよ、タコだ。 ・サーモンが好きだな。 ・これは何だろう。
- ・おすしだと似ているからわからない。 ・これはアジだ！ ・えんがわって初めて聞いた。
- ・知らない魚もいた。 ・自身ってほぼ同じ。 ・アジはどれ？ ・小田原はアジが有名。

「他の魚がどこでとれるか知ってる？」

- ・北海道がカニとかイクラが有名。 ~~・静岡でシラスやサクラエビを食べたよ。~~
- ・好きなサ ~~モン~~は北の方でとれる。 ・〇〇産ってそこでとれた魚のこと。
- ・場所によってとれる魚がちがう。 ・いろんな県で魚がとれる。
- ・九州の方でたくさんとれる。
- ・こんなに遠い所から魚が来ているんだ。 ・遠くから持ってこなくてもいい。新鮮じゃない。
- ・魚が足りないからでしょ。 ・何で足りない？ ・魚がとれない県もある。食べられない。
- ・日本人が魚をよく食べるからだよ。 ・特に大人は魚をよく食べる。
- ・日本人は魚をよく食べるの？ ←食べるでしょ。 ←わかんないじゃん。
- ・日本人は昔ほど食べていないけれど、世界で見たら魚をよく食べる。
- ・日本人はやっぱり魚をよく食べる。

日本の年間消費量

魚の旬とは？

- すし屋**
- ・だから店にいろんな魚が売ってるんだ。
  - ・店はたくさん魚がいればお金がもうかる。
  - ・客は新鮮な魚を求めてすし屋にくる。

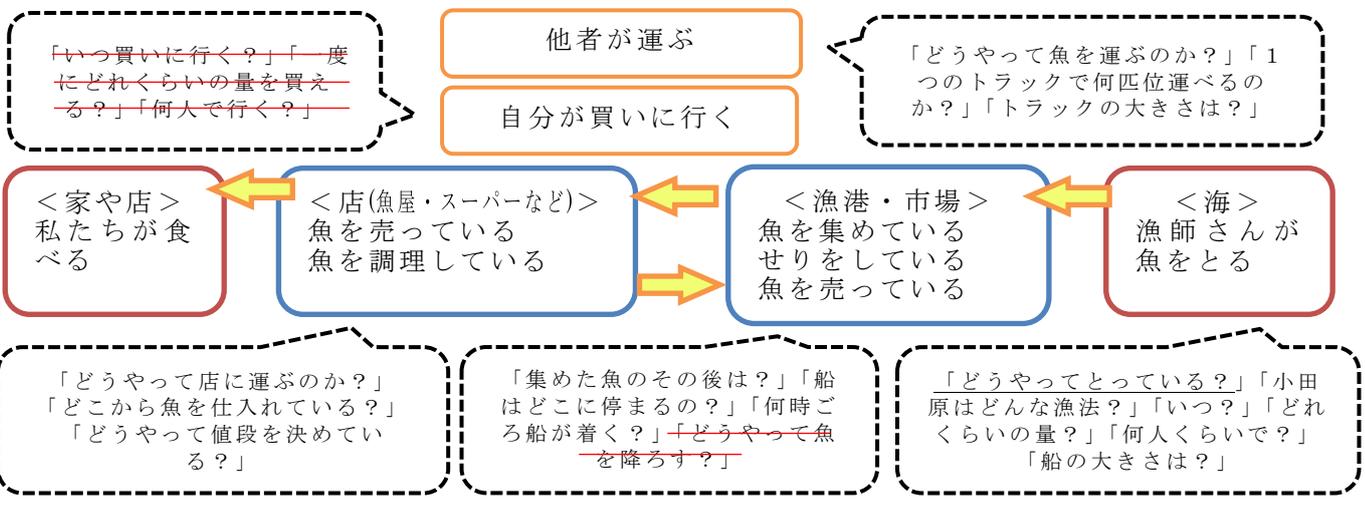
- ・魚が一番おいしい時期。
- ・魚によって産卵期がちがうから、一番おいしい時期も変わる。
- ・スーパーで急に多くなってきたもの。

「魚ってどうやって自分たちの所まで来ているか知ってる？」

- ・海で捕られてトラックで運ばれていく。
- ・海から自分の所に直通？
- ・漁港って関係あるかな？ ・地方の漁港から近所の漁港までくる。
- ・漁港から店は直通？ ・遠すぎでしょ。
- ・すし屋は直通かもしれないけど、スーパーとかなら間に入る。
- ・工場とか。 ・かまぼこ専門店とかある。
- ・店の人が買って、自分たちに売っている。
- ・店の人ってどこで魚を買っているの？
- ・漁港じゃない？

魚写真を地図に掲示 港に集まる様子

魚は、自分の 私たちの口までどうやって来ているのだろう？②



「九州でたくさんとれるって言っていたけれど、たくさんとれるのって九州だけ？」

- ・日本海でも魚がとれるよ。 ・他の場所もとれると思う。

- ・あまりよく知らないなあ。
- ・魚って全国でとれるんだ。
- ・川に魚いるじゃん。
- ・海の魚は47都道府県中39県でとれる。
- ・ほとんどの県でとれてるじゃん。
- ・何でこんなにとれるの？
- ・日本は海に囲まれてる。

・海に囲まれてたらとれるの？

主な水産物の水揚げ量  
漁業漁獲量

生産地と消費地を結ぶ運輸の働きについて関心を持ち、疑問点を考えようとしている。【関・意・態】

どうして魚がたくさんとれるのだろうか？③

- ・日本は海に囲まれている。
- ・沿岸がぼこぼこしてる。
- ・入りくんでいてことだから直線距離が長い。
- ・台風とか多いから日本の所に集まるんじゃない？
- ・逆に逃げるでしょ。
- ・海流や大陸棚などの自然条件が関係している。
- ・暖流と寒流があり、魚は海流に乗って移動する。
- ・暖流と寒流のぶつかる所「潮目」はプランクトンが多い。
- ・だから千葉がたくさんとれるんだ。
- ・魚の養殖も関係していると思う。
- ・泳いでいる魚と育てている魚をとっているんだ。
- ・どうやってとっているの？

- 日本の海流
- 日本の漁獲量
- 漁業の種類
- 養殖漁業とさいばい漁業
- 沿岸漁業と遠洋漁業と沖合漁業

日本で魚がたくさんとれる理由を、資料から読み取りノートにまとめることができる。【技】

魚をどうやってとっているのだろうか？④⑤

ポスターセッション  
★は教師の提示

<b>ぼう受け網漁</b> <さんまなど> 網を水中にしずめ、集魚灯やえさをを使って魚を集めてとる。	<b>いかつり漁</b> <いか> 光に集まるいかの習性を利用してえさに似せたはりでつり上げる。	<b>地引き網漁</b> <あじ・ひらめなど> 陸から海にかけたあみの両はしを引いて、網を引き上げる。	<b>一本釣り</b> <かつおなど> えさのいわしや水をまいてカツオを集め、さおでつり上げる。
<b>定置網漁</b> <さけなど> 魚の通り道を網でさえぎり、網の中に魚をさそいこむ。	<b>底引き網漁</b> <ひらめなど> 袋のようになった網を漁船で引きまわし、海底近くの魚をとる。	<b>巻き網漁</b> <あじなど> 数せきの船でチームを組み、魚の群れを網で取り囲んでとる。	<b>はえ縄漁</b> <まぐろなど> 幹縄にえさをつけた枝縄を数千本もつけて約10時間かけてとる。
<b>養しよく業</b> <はまちなど> 魚や貝、海藻など、いけすやかごで育て大きくしてとる。	<b>★刺し網漁</b> <貝や伊勢えびなど> 仕掛けた網に絡ませてとる。少人数での操業。	<b>★素潜り</b> <さざえ・あわびなど> 潜水器具を用いずに、水中に潜ってとる。	<b>★シラス船曳網漁</b> <しらすなど> 魚群を見つけ、取り囲むように網を入れてゆっくりと曳く。

ほか ★中層トロール網漁<さよりなど> ★流し網漁<さけなど>

- ・いろいろなとり方があった。
- ・同じ魚でも、いろんなとり方をされている。
- ・魚によってとり方もちがうんだ。
- ・アジは巻き網か地引き網。定置網。
- ・小田原の漁港はどのとり方かな？

積極的に魚の種類や仕方について調べたりまとめたりして、魚をとる方法を理解しようとしている。【関・意・態】

小田原の漁業は何漁なのだろうか？⑥

- ・小田原はアジが有名なんだから地引き網か巻き網じゃないの？ ・どっちかな？
- ・両方ってことはないよね。
- ・小田原のアジってどうやってとっているんだろう？
- ・漁港の人に聞けば分かる。

「水産試験場という相模湾や小田原の漁業のことを教えてくれる場所があるみたいだよ。」

- ・行ってみたい。
- ・よし、今から行こう！

水産技術センター  
水産試験場に行って話を聞いてみよう。⑦⑧⑨

【漁港の役割】

- 収集方法・技術
- 市場の役割
- せり・値付け

【漁法】

- 定置網漁
- 刺し網漁
- 一本釣り
- 素潜り
- シラス船曳網

【漁師】

- 仕事
- 生活
- 苦勞

【相模湾】

- 自然環境
- 海流・栄養
- 大陸棚

【魚の運ばれ方】

- 運送
- 運ぶ人
- 運ぶ技術

- ・小田原漁港は、定置網・刺し網漁が中心だった。・素潜りやシラス船曳網、1本釣りもやっている。
- ・小田原漁港っていろんな魚がとれるんだ。・一本釣りは魚にストレスがなくて高価なんだって。
- ・定置網ってすごく大きくてお金もかかる。・定置網が流された時、すごい損害だった。
- ・お金かかるのに、何で定置網なの？・一度にいろんな種類がとれるんだよ。
- ・量もたくさんとれるからじゃない？
- ・え、とれないでしょ。定置網は半数以上も魚が逃げる。
- ・ほとんど逃げてるじゃん。

さまざまな工夫や努力によって、水産資源を豊かに保つことで、安定した消費が可能になっていることを理解する。【知・理】

半数以上、魚が逃げるのに何で定置網でとるのだろうか？(本時) ⑩

<p>【たくさんとれる】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・網が大きい。・一度にとれる。・巻き網以外のとり方よりとれる。</li> <li>➡巻き網の方がとれる。網の目も小さくしないから。</li> </ul>	<p>【いろんな種類がとれる】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一度にいろんな魚がとれる。・大きな魚もとれる。・魚が傷つかない。</li> <li>➡ほかのとり方だっていろいろな種類がとれる。</li> </ul>	<p>【魚を守る・とらない】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全部はとらない。・魚にやさしい。・網の大きさを小さくしない。</li> <li>➡漁師はたくさんとりたい。</li> </ul>	<p>【小田原の定置網のよさ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いろんな種類がとれる。</li> <li>・巻き網より魚に優しい。</li> <li>・お金もかかるからそんなに簡単に変えられるものではない。</li> <li>・機械化が進み、若い人も集まっている。他のとり方より安全で、生活も安定できる。</li> <li>・小田原の海には定置網が一番合っている。</li> <li>・小田原に合ったとり方や先人の思いなどの伝統がある。</li> </ul>
<p>【楽】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・待っていれば魚が入る。・機械化している。・若い人が多い。</li> <li>➡免許をとるのは大変。網の掃除は大変。</li> </ul>	<p>【地形に合っている】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・海の中ががけみたい。・ミネラルが豊富な海。・魚の習性に合わせている。</li> <li>➡魚群の方がとれそう。</li> </ul>	<p>【昔からやっている】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・江戸時代から同じ方法。変えるとお金がかかる。簡単に変えられない。</li> <li>➡定置網だってそんなにもうからない。</li> </ul>	

- ・本当はどうなんだろう？
- ・自分たちで考えているけど、ちがっているかもしれない。
- ・もう一度話を聞いてみたいね。

漁の仕方、漁師の工夫・努力について、自分たちが学んできたことと食生活を関連付けながら考えている。【思・判・表】

定置網でとる理由を聞いてみよう。⑪

★水産技術センター「木下さんの話」

★漁師さんの話

【魚の価値】

- 魚市場の役割・朝市
- せりによる値付け
- 消費量と値段の関係
- 小田原の魚の美味しさ

【定置網漁がさかんな理由】

- 小田原漁港の地形
- 魚の減少 ●小田原の伝統
- 禁漁期間や稚魚の放流
- 地球環境の変化(地球温暖化)

【漁師さんの気持ち】

- 苦労や工夫
- 大漁の時の喜び
- 不漁の時の悲しさ
- 廃棄される魚

【みんなへの願い】

- 魚のよさや小田原の魚の美味しさを知ってほしい。
- 魚をたくさん食べてほしい。
- 魚を大切に食べてほしい。
- 家の人に小田原の魚のよさを伝えてほしい。

様々な立場の人の工夫や努力によって、水産資源を保ちながら安定した消費が可能になることを理解する。【知・理】

- ・自分も魚より肉の方が好きだもんな。
- ・働く人だけでなく、魚のとれる量も少なくなっているんだ。
- ・日本人は魚をよく食べると思っていただけ、食べる人が減っているんだ。
- ・漁師さんは、魚のことを考えてとりすぎないようにしているんだ。
- ・漁師さんの売り上げが伸びるように国産の魚を選ぶようにしたい。
- ・魚を少しでも多く食べたいな。
- ・魚が苦手だけど食べられるようにならなりたい。
- ・残さず、たくさん食べられるようになりたい。
- ・漁師さんの気持ちを考えて食べたい。
- ・海の環境も魚に影響するから、海を大切にしたいな。

少しでも多く食べるにはどうしたらいいのかな。⑫

【小田原市の取り組み】

- 小田原ブランドの確立(他地域への流通・倍以上の価格)
- 食生活改善推進団体「六彩会」
- 漁港の駅「TOTOCO 小田原」

- ・小田原の魚の良いところを広める取組をたくさんしていたんだ。
- ・漁港の駅って最近オープンしたんだって。
- ・魚の美味しい食べ方を知りたいな。
- ・いろんな魚料理を食べてみたい。
- ・給食で出る魚の見方がちょっと変わったよ。

